

パセリ〔初夏播き冬穫り〕のカルテック施肥例

(パイプ・ハウスまたはトンネル)

(10アール当り)

時期	方法	資材
地力作り	なるべく早い時期に全面に投入して 深耕 します (定植までに1ヵ月以上おくこと)	ラクトバチルス 600グラム … 排水・通気よく、保肥力のある土に 堆厩肥 2~3トン 硫安 120kg (チツソ成分:24kg) ※栽培期間が長いので、 必ず堆厩肥をしっかり投入すること 。 ※このチツソは菌に摂り込まれて地力化し、定植時には 必ず E C:0.1~0.2程度に落ち着いていること。 ※このチツソ等は元肥にかわるものです。 通常、元肥には被覆または緩効性のチツソ肥料を使って、チツソ成分:30~40kgを施用することになっていますが、経験上、チツソ成分:24kg程度を微生物で地力化し、栽培途中で調節の方が確実です。 ※ 必ず深さ30cmまで土壌pHを測定し 、pH:6.0以下だった場合はこの時に 畑のカルシウム も併用してください。
	平葉種(イタリアン・パセリ)では各100kg	畑のカルシウム 120kg ※土壌pH:6.0~6.5、これを翌春まで維持する事。 (栽培中に決してpH:5.5以下にはならないように注意) ※パセリには 多量のカルシウム が必要です。もしもカルシウムが足りないと、軟腐病や芯腐れが多発します。
ウネ作り時	ウネ作り時に、カルシウムを全面に散布	
育苗	(6月) 播種後、灌水時	種子浸漬、播種、薄く覆土、その後の灌水に、 濃縮酵素液 1000倍液 灌水 …揃いにくい発芽を揃える 発芽は10日位(15日以内)に揃えばよい。灌水を多くしすぎない。
	(播種後10日頃) 発芽揃い時	大体、発芽が揃うのを見て、 カルテックCa液状 1000倍液 灌水 …苗を徒長させず、充実させる
	(播種後20日頃) 間引き時	本葉が展開したら、1穴3~4本に間引きし、その後の灌水に、 濃縮酵素液 1000倍液 灌水 …根を強く、生長を進める
	育苗後半	セル苗40日、ポット苗50日程の、後半には、通常は7日ごとに 濃縮酵素液 と カルテックCa液状 の交互散布。肥切れなら アミノ酸液 。
	定植3日前	定植に備え苗を充実させるため、 カルテックCa液状 500倍液 灌水
(8月) 定植	定植後の灌水 (炭ノ、疫対策も)	濃縮酵素液 1リットル 灌水 (500倍) …直根を深く伸ばし、活着(10日以内)
(9月) 間引き	間引き後の灌水	濃縮酵素液 1リットル 灌水 (500倍) …残した株の発根、生長を促進
(10月) 下葉整理	整理後の灌水	下葉整理、側芽摘み後、…根から強く 濃縮酵素液 1リットル 灌水 (500倍)
〈11~4月〉 収穫中	本葉13枚以降、右記を 交互に ※(10~)14日間に灌水1回(収穫直後が良い) 直根が30cm深まで伸びて、根毛が多いこと!	(10~)14日間で、(2~)3枚ずつ収穫し(つねに10枚ほど残す)、 収穫直後、 濃縮酵素液 1リットル 灌水 … 根から強く展葉促進 (根腐れ・枯れ込みの対策、 葉縁まで厚く、縮み強く、濃緑色の葉 に) その7日後、 カルテックCa液状 500倍 散布 … 葉に重み、香りを増す (ウドンコ・軟腐の対策、 アピオール等の精油成分やビタミンが増加)
	※チツソ補給は適)	アミノ酸液 2~5リットル 灌水 または 500倍 散布 (酵素の3日後が最)
追肥	12月中旬、 2月下旬	硫安 20kg 畑のカルシウム 20kg
		株間に散布して、散水し、葉から洗い落とす。原則として同量を施用。 土壌pH:6.0(最低限5.5)以上のこと!

(生育適温:15~20℃。限界:5~25℃。この作型では収穫期は適温となるが、夏期の高湿・多湿に注意)